

花の里づくりの会

会報第一号 2005年4月発行



ヒマフヤ桜

早いもので、皆様のご援助ご助力により本会が平成十六年四月に発足して一年が経過いたしました。本会発足の趣旨は、そもそも村の人々が集う神社仏閣に、其々特色のある花木を植えようじゃないかと、老い先が短いせつかな年寄りどもが、寄り集まって考えた事が始まりであります。そして本会の趣旨に賛同いただける方々に声をかけました処、多数の皆様にご賛同いただきまして、誠にありがとうございます御座いました。この一年間で正会員が66人、賛助会員が10人、ご寄付を戴いた方が21人の御芳志を戴きまして、上の写真のヒマフヤ桜を始めとする花木等の購入費に充てさせて戴きました。重ねて皆様に御礼申し上げます。そこで皆様には発足後一年が経過いたしましたので、この一年間の活動について本会報の発行を持ちまして、御報告といたしたいと存じます。

供戴きました光明寺を始杉山神社、北杉山神社、面を持ちまして厚く感今年植えた花木は、少ない状況にありりまして、数年後られる事でありにありがとうございます引き続き本年願ひ申し



花の里づくりの会会長 中山 宏

また、花木を植栽する場所を提めとする、善教寺、西方寺、専念寺の皆様にも、本紙謝を申し上げます。なお、まだまだ小さくて花もますが会員の丹精には数多くの花が、見ましよう。皆様、誠に御座いました。引もよろしくおあげます。

地下鉄新羽駅と北新横浜駅周辺図

皆様お気づきでしょうか、実はこの図面は今から十年前の平成六年に撮影した航空写真を基に書き起こした超精密画です。日頃見慣れた風景でも十年も経つと、随分と変わっている処があります。この地図を片手に散歩がてら、今との違いを探してみても如何でしょうか……





善教寺

専念寺



written by *Sanuki Sans* 

花木の植栽にご協力いただいた寺社の方々を紹介いたします。



新羽駅から地下鉄に乗って仲町台駅に向かうと電車は程なくトンネルに入ります。その直前、左側の山際に竜宮城の様な大きな建物が見えてきます。これが遍照山光明寺という高野山真言宗のお寺です。一層目は大勢の人が集える講堂になっていて、二層目のご本尊を祭る本堂となっています。境内には横浜市の名木指定によるケヤキとヤマザクラとサルスベリの古木があります。

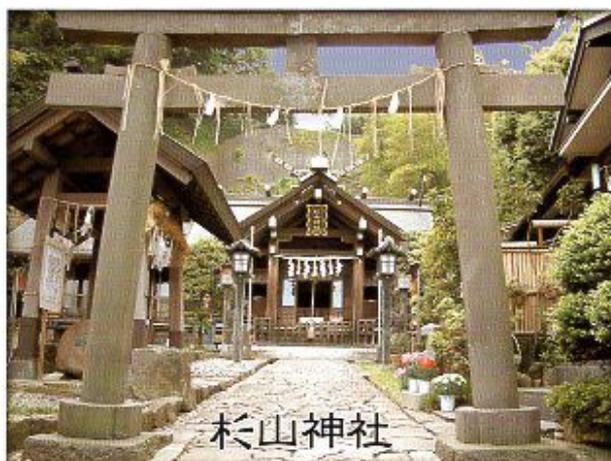


新羽駅の改札口を出て、前の通りを左側に向かって西へ五分も歩くと、米山プランテーションが見えます。その道路の向かいにあるのが、補陀絡山西方寺という真言宗のお寺です。当寺には天平写経と呼ばれる国指定重要文化財の注大般涅槃経巻第十九があります。また、本堂や山門等が横浜市の指定文化財に指定されていますが、本堂は平成十六年から大修理に入っています。



新羽駅前の県道川崎町田線を西へ歩いて行くと新羽十字路があります。その先のゴルフパッティング場の脇の小高い丘を越えた先の大竹交差点にあるのが、この善教寺という浄土真宗本願寺派のお寺です。境内には横浜市の名木指定の大きなカヤやイチョウや枝垂れ桜の古木があります。それから入り口には新羽幼稚園を併設しておりまして、明るく元気な園児達の声が開えてきます。

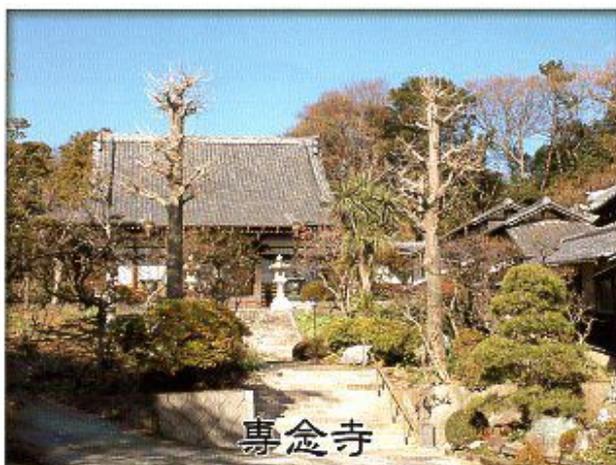
西方寺参道前の道を、北に二～三分も歩いて行くと、閑静な住宅街の奥まった処に神社が現れます。それがこの新羽総鎮守杉山神社であります。急な階段を登るとしめ縄を渡した本殿が奥に見えてきます。この本殿には日本武尊をお祭りしております。句碑によると日本武尊がその昔に東国平定の折に当地を訪れ、後に村民が祠を造りお祭りしたのがそもそもの始まりだそうです。



光明寺さんの脇から地下鉄の高架下を抜けて歩いて行くと、のどかな田園風景が広がっています。そして二分も歩くと、その先の切り立った崖に石段が見えてきます。これが北杉山神社です。急な石段を登り切ると、ネズミの石像が出迎えてくれます。この神社は大国様をお祭りしています。その昔に根の国で、大国様の窮地を鼠が救って以来、鼠は大国様のお使いとなっています。



市営地下鉄の北新横浜駅を下りて、西の方向に五分も歩くと、山裾に沿って走っている旧道の主要地方道横浜生田線に突き当たります。この道を新羽十字路の方に歩いて行くと、程なく“専念寺入り口”の交差点となり、お寺が見えます。このお寺が浄土宗の専念寺です。明るく広々とした境内には、横浜市の名木指定のカリンの古木があり、山門の脇には枝垂れ梅があります。



初年度(平成16年度)の植栽実績

◆光明寺◆

ハンカチの木 一本

ヒマラヤ桜 一本

エビネラン 960本

酔芙蓉 40本

シャクナゲ 60種60本

東山赤、日輪、くれない、春一番、サンシャイン、踊り子、春風、黄山

ヒラノシロ、白波、ブルーハワイ、千代の舞、北国の春、サッホー等

萩 10本

◆西方寺◆

ハンカチの木 一本

ヒマラヤ桜 一本

彼岸花 赤・白・黄色 1,000本

◆善教寺◆

ハンカチの木 一本

ヒマラヤ桜 一本

けむりの木①ベストピンク(濃いピンク・地掘り物)10本

②ピンクボール(ピンク・地掘り物)5本

③品種不詳(白・地掘り物)5本

④グレース(赤・鉢物)10本

⑤バイカラー(濃いピンク・鉢物)10本

⑥ラプリーレッド(赤・鉢物)10本

⑦品種不詳(白・鉢物)5本

シラン 白・口紅・斑入り 300本

秋海棠 ①白 ポット 25本

②赤 ポット 25本

◆杉山神社◆

ハンカチの木 一本

ヒマラヤ桜 一本

◆北杉山神社◆

ハンカチの木 一本

ヒマラヤ桜 一本

◆専念寺◆

ハンカチの木 一本

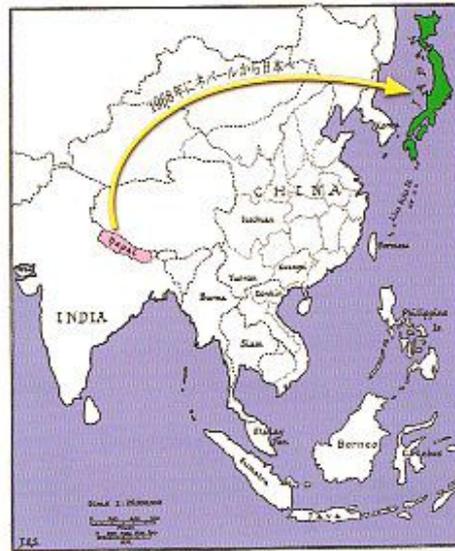
ヒマラヤ桜 一本

初年度(平成16年度)に植栽した花木の説明

ヒマラヤ桜



この桜はネパールを中心としたヒマラヤ地方の標高1,100~2,200mの暖温帯に分布する原種の桜です。日本では11月~12月にかけて直径3cm程の薄ピンクの花を咲かせます。そして開花と共に若葉も生え始めます。氷点下が5℃以下とならない地域では、若葉は冬を越し枯れる事は無いそうです。それでヒマラヤ桜は落葉樹でありながら、何と一年の内で11ヶ月も緑を保つそうです。このヒマラヤ桜の大きな木が、熱海市下多賀の熱海高校にあります。それは1968年に、日本に留学中のネパール王国のビレンドラ皇太子より贈られたものだそうです。900粒の種が六年後に60本の苗木に育ち、熱海市の彼方此方に植えられましたが、現在残っているのは熱海高校の三本だけだそうです。

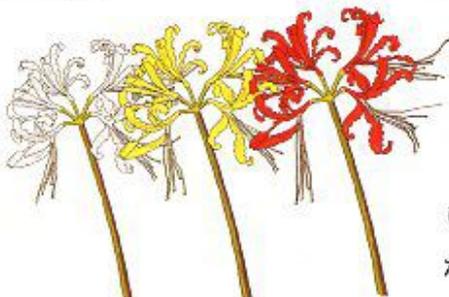


けむりの木



英語ではスモークツリーと呼んでおり、その和訳です。六月に花が終ると雄花の花柄(かへい)が細長く伸び、羽毛状の花序(かじょ)となり、遠目に煙が漂う様に見える事から、けむりの木と呼ばれています。ウルシ科の落葉樹で中国からヒマラヤ、南ヨーロッパにかけ広く分布しております。日本には、明治初期に導入されました。最近になって色々な園芸品種が回り始めました。煙がピンク色や赤色等のものがあります。しかし昔は、この木を白熊(はぐま)の木と呼んでいました。それはチベットに生息する牛の仲間であるヤクの尻尾の毛を束ねて作る仏具の払子(ほっす)に似ている為、とされています。話は脱線しますが、払子とはインドで殺生を忌む僧侶が説法の際に、纏わり付く蠅を追い払うのに使っていたのが、中国から伝来するに際して煩惱を払う仏具となったそうです。下世話に申せば、即ちこれは“はたき”の御先祖様でありましょう。

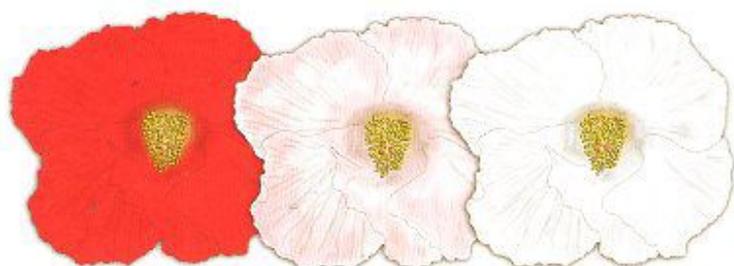
彼岸花



夏が過ぎお彼岸が近づくと、昔は田の縁によく見かけたものです。ただ不思議な事にお彼岸頃になると茎が伸び、その先に花だけが咲き葉は有りません。実はこの彼岸花は球根でして、春になり他の植物が一斉に葉を伸ばし始めると、彼岸花の葉は枯れて休眠に入ります。そして彼岸になると球根から芽を出して花を咲かせるのです。で花が終ると葉が出て冬を越すのです。

酔芙蓉

アオイ科の植物で、芙蓉を母種にした改良品種です。学名は *Hibiscus*



夕方

昼過ぎ

午前中

mutabilis cv. *Vercicolor* と言います。秋口になると咲き始める落葉低木です。樹高は2~3mになります。花は直径が10cm程です。特徴はと言いますと、早朝に咲いた白い花が、太陽が昇るにつれてピンク色に、染まり始めまし

て、それが夕方から夜になると真赤に変化するという摩訶不思議な花であります。そして、翌日の朝には萎んでしまう、たった一日の命の儚い花であります。酔芙蓉なる和名は、酔っぱらいの顔が赤くなっていく様を、花色の変化に例えて名前を付けたものです。

秋海棠



ペコニアの仲間として、中国南部からマレーシア半島が原産地です

ですが、日本には江戸時代に中国より渡来したと言われていま

す。シュウカイドウの名前は漢名の秋海棠の音読みで、バラ科のカイドウに花の色が似ており、秋に咲くことに由来しています。夏が終りかける頃に、葉の脇から長い花

茎を伸ばして、その先に淡い紅色の花や白色のをつけます。面白い事に、一つの株に雄花と雌花が付きま

す。黄色い毬が付いている雄花が先に咲き、続いて花の付け根

に三角形の翼の様なものが付く雌花が咲きます。これを雄性先熟と言いま

す。この花とは別に、葉の付け根にムカゴ

ができて、晩秋になるとそれが地面に落ちて芽を出します。

紫蘭



元来は、山地の草原や林縁の斜面などに生

える野生のランで学名は *Bletilla striata* と言

います。紫蘭の名に恥じめ優雅な紫色の花を5

月に咲かせます。葉の基部から長さ40~50cm

の花茎を伸ばして、その先端に5~6個の紫色の

花を付けます。この紫蘭は野生のランの中では

最も栽培が容易な種です。日当たりの良い庭

でも別に特別な管理をせずとも、勝手に増え

ていきます。関東では、冬が近づき霜が降る頃になると地上部

の葉は枯れてしましますが、春になると葉と花が地上に顔を出します。花には紫色の他に

白色の物と口紅と言って唇弁(花中央の下側の皺々の花弁)の先端が紅色の物があります。

ハンカチの木



これは、別名をゴーストツリーとも言います。この花？が枝にたなびく様をみて、ハンカチ或いは精霊(ゴースト)と称したのでありましょう。この白い花卉の様に見えるのは、実は葉が変形した苞(ほう)という器官です。この珍木は、十八世紀末にフランス人宣教師で植物ハンターであるアルマン・ダビット氏が中国の四川省で見つけて西洋に紹介したのです。開花する迄に十数年を要する事から、あまり知られていない木です。五月上旬に咲きます。花卉の様に見える苞は二枚でして、大きい方は長い卵形で長さが15cmで、小さい方は卵形で長さが5cmです。そして、開き始めは淡い黄緑色をしていますが、開くにつれて白くなります。苞の付け根にある球形の物は、雄しべの集まりであります。

萩



秋を象徴する花として愛されており、俗に秋の七草の一つとして数えられています。弓なりに細く垂れて、蝶の様な紫色の花を咲かせる様は、正しく日本の秋を象徴しています。古より馴染みの深い花でして万葉集では百首に余る歌が詠まれています。しかし萩はサクラやツバキ等と同じく同類の植物群の俗称でありまして、萩という特定の種はありません。日本には十種類ほどある

ようですが、似ている事から、素人には判定が難しいそうです。一般に広く庭園などに植えられている物には、宮城野萩 *Lespedeza nipponica* があげられます。

エビネラン



日本の全国に生えていましたが、昭和五十年代前半のエビネブームで個体数が激減しました。それまでは横浜の近在では、谷戸田が入り組む里山では、ごく普通に見られた花です。かつてはクヌギやコナラの雑木林の斜面や窪地に群生していました。ラン科の植物で、四月になると新芽から30cm程の花茎を伸ばし、これに5枚の茶褐色肉花卉と白色唇弁からなる花を5~10輪付けます。ただ花卉の色と形の変異が多く、これがエビネブームが起きた一因ともなっています。実に地味ですが、よく見ると個体差がありまして面白みがある花達です。地下部には球茎(バルブ)が□がっており、毎年次々に増えていきます。この球茎の様が海老が背中を曲げている様に見えるので、エビネと名が付いたそうです。



シャクナゲ

シャクナゲはツツジ科ツツジ属シャクナゲ亜属の植物の総称です。その葉を石南葉と呼び利尿剤として用いられ、石南(せきなん)が転じシャクナゲとなったと言われています。それで、一口にシャクナゲと言っても野生の原種やら園芸品種やら、日本原産やら外国産やら、俗に日本シャクナゲ(和種)とヒマラヤ等を起源とするシャクナゲの交配種である西洋シャクナゲ(洋種)などの分け方あります。植物形態学的な表現をすると、常緑の中高木で、革質で長楕円形の葉を、枝先に輪生します。下界では、花は4～5月に枝の先端に花房状にマリの様に多数が付きます。一つ一つの花は5～7弁からなる合弁花で、白色やピンクや赤色など多彩で艶やかで豪華であります。

◆今後の植栽予定◆

昨年の平成十六年は、皆様のご援助ご協力により、滞りなく成功裏の内に事業が進みました。皆様のお蔭と感謝いたしております。こうした事業は、花の里づくりの会にとっては初めての活動でしたので、まずは直ぐに植栽が出来る処から始めました。それ故に、木や草花を植えた場所にバラツキがあった事をご了承下さい。設立二年目にあたる平成十七年は、引き続きインド菩提樹やツバキなどの様な木や草花を、ご協力戴いている神社仏閣の境内に植栽をする計画でありますので、昨年を引き続きまして、皆様の温かいご支援ご協力を賜ります様に、重ねてお願いする次第でございます。

本会の趣旨に賛同して参加いただける会員と新たな候補地としての寺社仏閣を、募集しております。ご希望の方はお申し出下さればご説明させて頂きまますので、会長宅までご連絡下さい。

花の里づくりの会 会報第一号 2005年4月発行

発行者 花の里づくりの会 会長 中山 宏

お問合せ先 045-541-5578 (事務局 中山宏 宅)